

---

# いたい場所

RYU

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】  
いたい場所

【コード】  
N0831E

【作者名】  
RYU

【あらすじ】  
明日は大学もバイトも休みなので、どこかに行こうと予定を立て始めるのだが……。2人の会話をほのぼのと書いた恋愛小説です。

「明日どっか行くの？」

彼も私も明日はバイトが無い。彼は私の正面に座って一緒にテレビを見ている。もうそろそろ炬燵をしまふ時期かもしれない。

「そっだね」

付き合い始めたのは3ヶ月前ぐらいだったと思う。大学のサークルを通じて知り合った。

「どこがいいかな？」

彼は3年。私は2年。学科が一緒だったので、分からないところを教えてもらうことが多かった。そんな日々が続いたある日。彼から、付き合いあって欲しいと言われた。私は“待つてた”とだけ言った。「うーん。どこでもいいよ」

実のところ私はサークルに入ったときに彼に一目惚れをしていた。彼から付き合いあってほしいと言ってもらうのを待つてた。私はズルイ女だから、彼に私が好きなのを気付いてもらうためにいるんなアピールをした。

「気の無い返事だね。出かけるの嫌？」

分からないところを聞きに行くのも1つの作戦だった。周りから変な目で見られず1対1で会える。とにかく少しでも近くにいたかった。

「嫌じゃないよ。ただ・・・」

そんな自分が少しズルすぎるとちょっと後悔している。

「ただ？」

私は全て彼に頼っていた。彼の行動に頼っていた。

「私はどこかに行きたいんじゃない・・・」

告白も彼に言わせてしまった。

「いたい？」

だけど、今日は私の気持ちを私の口から言いたかった。

「あなたの側にいたい。隣にいたい。近くにいたい」

私は彼を見て言った。

「そっか。じゃあ、俺が行きたいところに行くよ」

彼のそっけない返事に少し笑ってしまった。こういう事言つゝの恥ずかしいんだよ。まったく……。

「いいよ」

少し残念な気持ちを押し殺して私は視線をテレビに移しながら返事をした。

「俺は……ここかな」

そう言いながら、彼は私の隣に座った。

私の顔が一気に赤くなったのを感じた。

「俺のいたい場所は、その、あの……お前の隣だよ……」

私は何も言わず、彼の肩に頭を寄せた。

(後書き)

お読みいただきありがとうございます。

恋愛系は2つ目になると思います。前は小学生、今回は大学生ものに挑戦いたしました。なにぶん恋愛体験が少ないものでショートショートしか書けません、これからもよろしくお願いいたします。

また、コメディのほうもちよく書いていますので、こちらのほうも気が向いたときで良いのでお読みいただけると光栄です。それではまたの機会に(機会があるかどうかは未定ですがw)

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0831e/>

---

いたい場所

2010年12月18日15時05分発行